

安芸市事前復興まちづくり ワークショップニュース

穴内地区 第1回(令和8年7月3日開催)

7月3日(金)、穴内公民館で「穴内地区事前復興まちづくり計画策定 第1回ワークショップ」を開催しました。グループワークに先立って、過去の大規模災害からの復興事例を紹介し、「復興まちづくり」のイメージを共有しました。

穴内地区の将来のまちづくりを検討するにあたって、第1回のワークショップでは、3つのグループに分かれて地区の「これまで」や「現在」のこと、「取組に対する率直な意見」、などについて意見を交換しました。

事前復興まちづくり計画とは？

これまで安芸市では「命を守る」対策として、津波避難タワーや避難路の整備、「助かった命をつなぐ」対策として、避難所運営マニュアルの作成など、住民の皆さんと一緒に取り組んできました。「事前復興まちづくり計画」は、南海トラフ地震による被災後、一日でも早く復興に向けた取り組みを始めるために、復興後のまちの姿を事前に検討しておくものです。

この計画と、これまでの取組をつなげることで、地域に住み続けられる「安全安心」と「持続可能性」を高めていくことが目的です。

南海トラフ地震の発生

これまでの取組

命を守る

- 強い揺れに対する備え
- 津波からの避難 など



助かった命をつなぐ

- 避難所の開設と運営
- 外部からの支援の受入など



これからの取組

復興まちづくりについて、
事前に皆様と一緒に
考える

生活を 立ち上げる

復興まちづくり

- 安全なまちづくり
- 仮設から恒久的な住まいの確保
- 教育や福祉、暮らしの再建
- なりわいの再生 など

ワークショップテーマ

事前復興まちづくり計画を作成するにあたって
地区の「これまで」や「現在」、「取組に対する意見や感想」

● 地域特性

地区の現状

- 主なりわいは高台で営まれる農業(なすのハウス栽培)
- 国道沿いの沿岸低地部は、特に高齢化が進行
- 国道沿いに集荷場や郵便局、鉄道駅などが立地
- 刑部や立花など、中山間に小規模集落がある
- 高台は地盤条件が良い

困っていること・不安なこと

- 後継者がおらず、農地の維持が困難になっている

残したいところ

- 集落と集落のつながりや、お祭りの文化(十二所神社と八幡宮の神祭等)を残したい
- 特産のなす



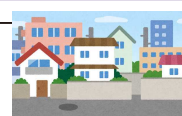
● 社会インフラ

地区の現状

- 高台は、アクセス道路が限定され、集落内の道も狭い
- 高規格道路建設に伴う周辺整備によって一定の生活環境改善が期待される
- ハゲノ岡橋は集落同士をつなぐ重要な橋
- 過去に高潮災害を受けて海岸保全対策が進められた

困っていること・不安なこと

- 被災によって、上水道の寸断、農業用水の不足(水路やパイプラインの損傷リスク)がある
- 集会場が、数と規模の両面で不足
- 日々の買い物は安芸市街や芸西に行く必要がある
- 耕作放棄地が増えている



● 計画策定の取組に対する意見

困っていること・不安なこと

- 所有者不明土地の問題があり、道路拡幅等のネックになっている
- 沿岸部から高台の農地に移転したいが、農業生産を守る観点から宅地への転用が困難

これからのまちに必要なもの

- 被災地の教訓ふまえて、事前に私たちのまちの復興について主体的に考えておく必要がある
- 被災前に高台に安全な居住地を確保できれば、景観などの面で若年層が流入するポテンシャルがある
- 高規格道路整備に伴う残土場等の有効活用
- 耕作放棄地の応急期、復興期における有効活用
- 集落単独ではなく広域的に捉えて、復興を通じて地域振興に結びつける視点が必要
- 被災前から地域の将来について夢を語り、住民と行政が一体となって実現を目指す



これからのまちに必要なもの

- 国道から高台へアクセスする道路整備
- 高台の集落を結ぶ幹線市道の拡幅

● 津波避難・避難所確保

困っていること・不安なこと

- 低地部は、津波だけでなく、高潮や土砂災害に対する不安がある
- 刑部や立花などで土砂災害による孤立集落の発生リスクが懸念される
- 沿岸低地部の独居高齢者等の津波避難

これからのまちに必要なもの

- 事前に高台に移転できれば被災を防ぐことにもつながる



※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

お問い合わせ先 安芸市危機管理課

TEL 0887-37-9101 FAX 0887-35-4445

E-mail kikananri@city.aki.lg.jp

次回ワークショップ開催のご案内：令和8年10月30日(金)18:30～穴内公民館